

手爾乎波の學びに通じて、詞の本末一卷をあらはす、妻も同じくざれ歌をたしむ、狂歌の名を智惠の内子と號、

祭の和樽

和樽は鈍々亭と號、狂歌の大人也、

杏華園蜀山人

蜀山人は太田氏名覃、字子粗、號南歩、後に南畝と改む、通稱直次郎、晩年七左衛門と改む、から倭のふみにわたり、博識なり、生質狂歌を好み、朱樂菅江の門に遊び、狂名寐惚先生、また四方の赤良と云、

〔江戸作者部類一〕山東京傳

江戸京橋銀座一丁目の家主岩瀬傳左衛門本姓は田也の長男にて、實名を傳藏と云、名は田藏ケマシ字は伯慶、後に名を醒、字を酉星と改め、山東庵と號し、醒々老人と稱す、嘗て畫を北尾重政に學びて、畫名を北尾政演といひけり、

式亭三馬

三馬は、板木師菊池茂兵衛の子也、名は太助、略中戲作は寛政八九年の頃より名を著はして、初は西宮新六板にて、二冊三冊の臭草紙を作り、又洒落本とか云、誨淫の小冊を綴て印行したり、みづから云、吾は唐來子の才を慕ひ、烏亭子に忘形の友とせられしより、三和焉馬の一字を取りて、三馬と號するとぞ、

爲永春水

實名を越前屋長二郎と云

〔蜘蛛の糸卷〕文墨の名家